

城山に きさいや

宇和島のシンボル「宇和島城」

伊達十万石の城下町と呼ばれ、江戸時代から四国西南地域の中心として発展してきた宇和島市。現市街地のほぼ中央に位置する標高約80mの丘陵地に、まちのシンボルとして「宇和島城」が佇んでいます。慶長元々6年（1596〜1601年）の藤堂高虎創建時には大半が海に面していて、上から見ると不規則な五角形の城郭となるなど、地形を巧みに活かした高虎ならではの工夫が見受けられます。その後、慶長20年（1615年）に伊達政宗の長男秀宗が宇和郡10万石を拝領して宇和島城へ入城し、宇和島伊達家が誕生しました。

2代宗利が寛文元々12年（1661〜1672年）にかけて城を大改修し、多くの石垣や櫓を修築しました。現存12天守となる現在の天守はこの宗利の手によるもので、藤堂高虎が岩盤上に建造した望楼型天守から、当時最先端の石垣造りの天守台をもつ層塔型の天守へと変貌を遂げました。その後、明治を迎えるまで宇和島伊達家の居城としてあり続けます。白壁が美しく御殿建築の要素が随所に施された優美な姿が印象的です。





宇和島御城下絵図（元禄16年）
（公財）宇和島伊達文化保存会所蔵

現在、堀はすべて埋められ、三之丸をはじめ総郭部分約28万㎡は失われてしまいました。が、本丸や二之丸などの郭を含む約10万㎡の丘陵部は戦前まで伊達家により保護され、昭和9年に天守が国重要文化財、昭和12年に丘陵全体が国史跡の指定を受けています。そして、昭和24年に天守も含めて丘陵全体が宇和島市に譲渡され、昭和38年には南側登城口城門の上り立ち門と北登城口にある藩老桑折氏武家長屋門が市指定文化財に指定されました。

宇和島城は、まちのどこからでも見えるいわば宇和島の顔。今回は、市民から「おしろやま」の愛称で親しまれるその魅力について、改めて見つけ直します。



訂正とお詫び

広報うわじま7月号P11に誤りがありましたので訂正しお詫びします。

▶上段左から2人目

誤：吉田高校 正：宇和島東高校

登るたびに、
新しい発見がいっぱい



城内で最も高いとされる代右衛門丸の石垣をバックに。下には守る会が整備に協力した式部丸がある。



宇和島城城山を守る会

城代（会長）堀田 昌弘 さん
家老（副会長）石崎 勝 さん

※守る会の役職は、江戸時代の役職になぞらえたものを使用しています。

みんなの城山を守るために

宇和島城城山を守る会は、城山の作業員だった初代会長が退職するにあたり、せっかく城山に関わってきたのでボランティアでもできることはないかと考え、すでに近隣市町に城や遺跡の保全活動を行う団体があったことから、約10年前に結成されました。現在は約30人の会員で活動しています。

最盛期には50人以上が参加し、草刈りなどの景観整備や害虫駆除、伐採木を利用してベンチや木札の制作、年末のすす払いや鏡餅、しめ縄などの正月飾りなど、さまざまな活動を市教育委員会と連携しながら行ってきました。

過去には城山での親子学習の一貫で天守での宿泊体験を行ったり、うわじま牛鬼まつりの花火大会のときに手作りの灯笼を登城道に並べて開城し、本丸から花火を観覧するイベントも行いました。

ほかにも、甘酒やミカンのおもてなしをしたり、研修として四国内の城を巡り他の団体と意見を交わしたりもしていて、市外の人との交流も楽しみの1つだと言えます。しかし、会員の高齢化やコロナ禍により、最近は思うような活動ができていないそうです。



上／堀田さん曰く「小さいけれど姿が美しい」天守を見ながら、想いを馳せる。中／自分たちが整備に協力した式部丸を感慨深そうに見守る。下／中腹にある城山公園は、フェンスが無くなりより開放的な空間に。

上／あらわになった石垣。圧巻の存在感を見せる。下左／守る会で作った木札は、城郭の五角形と「合格」を掛けている。下右／毎年恒例の正月飾りは、伊達家の史料をもとに当時の飾り付けをなるべく忠実に再現。

登れば分かる、城山の魅力

今でこそどこからでも天守を望むことができそうですが、昔は草木を切つてはいけなかったそうで、あまり見えていませんでした。2代目会長の堀田さんは「天守は、小さいけれど鶴に見立てられる均整のとれた美しいフォルムが魅力。下からでもその姿が見えるようになって嬉しい」と話します。また、危険木などの伐採により隠れていた石垣があらわになり、新たな見どころとなりました。当時の姿を残す石垣群は、圧巻の迫力の中にも美しさと情緒をあわせもっています。

石崎さんは、城山全体が昔の姿のまま残っているのも魅力だと話します。数多くの植物が生えていて、城山に来れば宇和島地域にある草木のほとんども見ることができると言います。

これからもあり続けるために

これからも整備はしっかり行いながら、宇和島城ならではの何かができればと堀田さんは言います。「四国4城では観光客が1番少ない。昨今のお城ブームや歴女、刀剣女子などもうまく絡めながら、関連団体とも連携して新たな仕掛けを考えたい。また、市民のみなさんにももっと登ってほしいし、伝えていってほしい。」という話す姿からは、城山を守りたいという強い想いが感じられました。

8月7日(土) 新観光案内所「シロシタ」オープン



新たな「ココロまじわうトコロ」に

新たな観光交流拠点として

市民と観光客がまじわう場所に

8月7日(土)に、藩老桑折氏武家長屋門の横に新観光情報センター「シロシタ」がオープンします。雰囲気や近隣施設などを考え、外観を壊さないように配慮された木造2階建ての和を感じる外観で、外にはちょっとした休みするのに最適なベンチを用意しています。

1階が共有スペースになっていて、正面出入口から入るとすぐ目に留まる場所に観光案内コーナーを設置し、観光やイベント情報の紹介、施設案内を行います。甲冑も飾り、試着体験なども行う予定です。

物販コーナーでは各種おみやげに加え宇和島城にまつわるグッズを限定販売するほか「シロシタ」オリジナルグッズも販売予定です。また敷地内に自動販売機を設置し、カウンターやソファで気軽に休憩できるスペースも設けているほか、多目的トイレや授乳室もあります。駐車場は46台分を用意し、新たな観光交流拠点として訪れるみなさんを迎えます。

▼営業時間・午前9時〜午後6時
(12月31日と元日のみ休業)

「シロシタ」には、訪れた人をもてなすことのほかに、城山と商店街や近隣施設などをつなぐ役割が期待されます。また、訪れた市民や観光客が気軽に交流する場所としての役割も担います。城下になごいをもたらし1つのきっかけとして、また訪れた人にとっての「ココロまじわうトコロ」となるよう、みんなでこの場所を盛り上げ、新しい宇和島を創っていきましょう。

みなさんのご来館をお待ちしています！



観光情報センター
スタッフ



宇和島城のパンフレットもリニューアル

大納言小豆を上白糖で仕上げた上品なあんを、手焼きの最中で包みました。伊達家の風格をなぞりました。



伊達侯
御粽司 百波



兜をイメージした形状に、最高級のフレッシュバターと宇和島産のミカンを練り込み、しっかりと焼き上げました。

伊達ろまん
おのがみ菓子舗



城下プリン
パティスリーリブラ



宇和島産のコクのある赤卵「伊達こっことたまご」を使用した、なめらかな舌触りで1番人気のプリンです。



伊達な お城下おやつ

城山散策の後には
シロシタ周辺のお城に
まつわるお菓子で
ひと休み



伊達正月
木下正月堂



洋酒やバターを使ったカステラは小豆が入ってしっとりとした生地で、ほんのり甘く上品な味の和菓子です。



伊達ロール
パティスリージュテーム



食用の竹炭を使って生地を黒く焼き上げ、甘さ控えめの生クリームと宇和島産ブラッドオレンジのコンフィチュールをロールしました。

みんなの「おしろやま」
ココロまじわうトコロ宇和島城

宇和島城は、現存12天守として多くの観光客が訪れるだけでなく「おしろやま」の愛称で市民の憩いの場としてもたくさんの方に親しまれてきました。日課の散歩、城山公園でのゲートボール、イベントへの参加、花見や遠足、体力づくりや部活のトレーニング…、デートで訪れることもあるでしょう。朝や夕方に聞こえるサイレンが鳴っているのも宇和島城からです。きっと、それぞれにとつての思い出があると思います。

しかし、最近は登っていないという人も多いのではないのでしょうか。ぜひ、この機会に行ってみてください。懐かしい思い出が蘇る場所としてだけでなく、今回紹介した「シロシタ」なども含めて、新しい発見がきっと待っています。

訪れた人のココロまじわうトコロとして在る宇和島城。あなたのお気に入りの「おしろやま」を再発見してみませんか。

さあみんな、城山にきさいや。